

診療科長及びセンター長対象の実態調査の結果ご報告

◆調査期間 平成30年7月10日(火)～20日(金) ◆回収率 全47診療科が回答(100%)
◆調査対象者 診療科の科長、センター長 ◆調査方法 メール・ペーパーにて

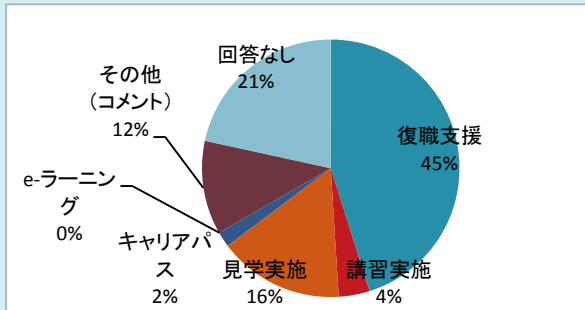
今回のアンケートは、診療科長及びセンター長を対象に実施し、全ての診療科から回答を得ました。
ご協力、ありがとうございました。

今回の調査で、女性医師支援に関しては、診療科によって差はありますが、総じて対応していることがわかりました。
しかしながら、明文化されていないケースや、制度を周知できていないケースがあることもわかりました。

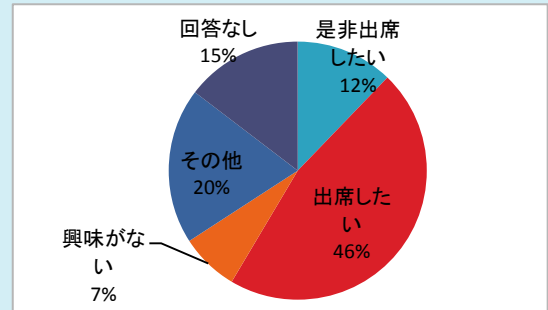
また、復職に関するプログラムについてはほぼ半数以上の診療科で実施されていました。今後は、復帰プログラム、女性医師支援等に関する情報を各診療科にご協力いただきながら、センターのホームページ及び各診療科ホームページへ掲載することにより、支援プログラムの周知を行いたいと考えています。

次に、女性医師に関する座談会や講演会の開催についても半数以上が関心があると回答がありました。当センターでは、女性医師に限らず、男性医師にも参加していただきやすいイベントの開催を行っていきたいと考えています。

〈参考〉Q. 復職支援について



Q. 座談会・講演会について



調査結果

(1)勤務形態について

勤務形態についてお聞きしたところ、短時間雇用及び産休、育休の現在の利用者が10%程度でした。制度を知らなかったという回答も一定数あり、今後は制度の周知の必要性を感じました。

当直・休日日直免除の対応も診療科ごとに行われており、半数の科が育児・年齢・職位・体調不良を理由に免除を行っていました。今後は、これらの負担が偏らないよう、医局内でバランスのとれた支援をしていくことが課題です。

(2)復職支援プログラムについて

復職支援プログラムの有無についてお聞きしたところ、70%以上の診療科が復職に関する様々な支援プログラムを実施していることがわかりました。

その他の意見には、「プログラムとしては定めていないが、相談の上、非常勤医師であっても復職しやすい業務内容から従事できるようにしている」とのご意見がありました。

今後は、各診療科にご協力を頂き、診療科ホームページ、当センターホームページにて詳細を随時掲載します。

(3)当センターへの期待・要望

- ・支援センターの存在、支援内容の周知
- ・アンケートは女性医師に限らず、男性医師にも認識していただくべき
- ・女性医師に限らず、男性医師、独身女性医師への業務負担を考慮し、医局でバランスのとれた支援
- ・女性医師のロールモデル紹介
- ・病児保育対応の院内保育室の完備
- ・女性医師が気軽に相談できる体制づくり